

令和7年度 指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：福祉こども部子育て支援課

1 施設概要

施設名称	中央こども園病児・病後児保育センター
指定管理者名	ル・アンジェ株式会社
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）

2 月次評価

評価月	評価
4月	1. 成人・小児・乳児への心肺蘇生法や AED 取扱いなど、実技中心の上級救命講習会を受講し、緊急対応力の向上に努めていることを確認した。また、小児看護のスキルアップ研修や、法人内の保育士向け月1回の研修・ミーティングも実施し、職員の知識・技術向上が図られていることを確認した。特に4月は、病児保育や感染症の流行について研修を実施していた。 また、避難所ボランティアの登録申込や、リサイクル図書への参加、リサイクルボックスの設置検討、絵本の時間など市主催イベントのポスター掲示など、地域活動、環境対策、市イベントの周知などにも積極的に取り組んでおり、人権セミナーや各種研修・講義にも保育業務に支障のない範囲で参加している。毎月25日には避難訓練も実施し、防災への取り組みも適切であることを確認した。 2. 4月の利用実績 ・利用者 病児 延べ22人 病後児 延べ3人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ0人 病後児 延べ0人 4月の利用 4月の利用者は延べ25人と、前月までと大きな変化はみられない。インフルエンザの利用者は1人に減少し、主に風邪や気管支炎、上気道炎による利用が多い状況。百日咳が流行しているが、利用者数には大きな影響は見られない。
5月	1. 5月28日には、中央こども園病児・病後児保育センターで防犯訓練（不審者対応訓練）を職員4人と病児2人（保護者了承済み）で実施したとの報告あり。来月は、すくすくかん施設全体で地震・津波警報を想定

	した垂直避難訓練も予定されていることから、避難訓練の取り組みも適正に行われていることを確認した。 また、防災シャッターのある調理室は周りに物が置かれておらず、整理整頓されていることを確認した。安全面・清潔面から社会福祉協議会による布おもちゃ・布絵本の貸出を活用しており、一週間ごとに入れ替え、利用者に好評とのこと。貸出の周知のため、施設入口にも布絵本や布おもちゃを飾っていた。さらに、児童図書館からのリサイクル図書も活用し、小学生向けの本を増やしたとのこと。以上のことから、適切に管理されていることを確認した。 2. 5月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 21 人 病後児 延べ 2 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 2 人 病後児 延べ 0 人 5月の利用 5月の利用者数は延べ 23 人で、ゴールデンウィーク期間中は利用者が比較的少なかったため、先月と比べ利用者数は 2 人減少した。また、昨年度の 5 月（27 人）と比べても 4 人少ない結果となった。利用理由としては、主に気管支炎や上気道炎、胃腸炎が多かったが、おたふくかぜによる利用者もみられた。
6 月	1. 6 月 27 日に現地確認を行い、職員の安全管理については、食中毒や感染症予防のため毎月検便を実施しているほか、ストレスチェックや健康診断も毎年 1 回実施しており、受診率向上に向けて法人全体で衛生委員会を設置し、周知や対応方法の検討を行っていることから、適切に管理されていることを確認した。 また、災害対策については、すくすくかん内の事業者が集まり地震や津波を想定した避難訓練を実施しているほか、自主防災指導員育成講習会に参加し、座学や実技、図上訓練など幅広い防災研修を受けたとの報告あり。さらに、避難所ボランティアの事前登録も行うなど、災害時の体制強化に努めていることも確認した。 2. 6月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 16 人 病後児 延べ 1 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 1 人 病後児 延べ 1 人 6月の利用 6月の利用者は延べ 17 人で、4 月（25 人）、5 月（23 人）と比べて少なく、昨年 6 月（32 人）と比べても減少した。例年この時期は RS ウイ

	ルスの利用者が増え始める時期だが、今年はまだRSウイルスの診断はみられない。主な利用理由は上気道炎や咽頭炎で、水疱瘡と診断されたお子さんの利用もみられた。 また、今月は新規利用者からの問い合わせや登録が今年度の中で比較的多かったとの報告あり。今後も利用状況の推移を注視しつつ、引き続き利用者増加に向けた周知に努める。
7月	1. 7月30日に現地確認を行い、こども一人ひとりの健康・生活状況に合わせて安全な保育が行われていることを確認した。特に、食事や薬の時間、要冷蔵薬の有無といった個別の注意事項については、個室入口のホワイトボードに記載し、磁石で重要事項を明示するなど、情報共有が徹底されていた。また、保育を担当する職員が目を離せない場合でも、他の職員が連携して食事や薬の準備を行うなど、事故防止への配慮も見られ、適切に業務が遂行されていた。加えて、市の「おもちゃリユースプロジェクト」に協力し、入口に回収ボックスを設置していることや、中央こども園の回収ボックス利用についても確認済みで、地域資源循環に積極的に貢献していた。さらに、「よこすか・みうら AEDステーション表彰交付章」および AED ステッカーを病児専用入口に掲示し、市民への周知を図っていたことも報告があった。以上のことから、利用者の安全確保および情報発信、地域連携に積極的に取り組んでいることを確認した。 2. 7月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 15 人 病後児 延べ 4 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 1 人 病後児 延べ 0 人 7月の利用 7月の延べ利用者数は、病児が 15 人、病後児が 4 人であった。利用者数は全体的に落ち着いており、特に上旬から下旬にかけて連休があったこともあり、利用が比較的少なかった。この時期に例年多くみられる RS ウイルスによる利用者はおらず、利用の主な理由は、上気道炎、胃腸炎、気管支炎などであった。過去 3 か月と比較すると、4 月は病児 22 人・病後児 3 人、5 月は病児 21 人・病後児 2 人、6 月は病児 16 人・病後児 1 人と推移しており、年間を通じて落ち着いた状況である。今後も利用状況の動向を注視し、引き続き利用者増加に向けた周知に努めていく。
8月	
9月	

10 月	
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	